ニッタオンライン
市政報告49

台風対策や子どもの安全確保
防災・減災・防犯を中心に

横浜市会議員　仁田（にった）まさとし

仁田（にった）まさとし　プロフィール
■こども青少年・教育委員会
■基地対策特別委員会　■監査委員
◇施政方針は「動く、創る、変える。」
ホームページ　http://www.nitta-m.jp/
ライン　情報発信中

昨年は台風15号、19号が横浜を襲い、被害が出たのと同時に多くの課題が浮き彫りになりました。また、県内では子どもが犠牲になる事件もありました。防災や減災、防犯について考えさせられる一年でした。

台風の際、地域の方から「避難場所が分からない」といった声を多く聞きました。さらに、高齢者の方や障がい者の方からは「きちんと避難できるか不安に感じる」との声もいただきました。

障がい者向けパンフ作成

公明党市会議員団は、災害時の対応が書かれた障がい者向けパンフレットの必要性を訴えてきました。昨年12月の市会定例会の中で市はパンフレットを作成する方針を明らかにしました。

定例会の中では、台風被害を受けた住宅の修繕費用を補助する「住宅修繕緊急支援事業」も決まりました。半壊または一部損壊の罹災証明書が発行された住宅は、屋根や外壁・柱等の耐震性向上につながる10万円以上の補修工事が対象です。補助率は10分の2、上限は30万円です。すでに申請受付が始まっています。

学校マニュアル改訂

昨年は5月に川崎市でスクールバスを待つ児童らが殺傷される痛ましい事件がありました。

私は事件直後、2010年に改訂された市教育委員会の「学校の防犯マニュアル」の見直しと改訂を求め、このほど、改定されました。主な改正点は①スクールゾーン対策協議会などの「地域の連携の場」を活用②集団登校などでのバス集合場所の安全確認③スクールバス待機場所の安全確保④警察署と学校間で、不審者情報を共有できる体制構築――です。

今後は改訂マニュアルに従い、具体的な取組が求められます。

パラスポーツに注目

今年は東京五輪・パラリンピックの年。五輪に注目が集まりがちですが、パラスポーツの圧倒的なスピード感、迫力は時に人智を超えたパワーを発揮し、その感動は計り知れません。

横浜市はパラスポーツの普及に力を入れています。港北区の「横浜ラポール」は多くのパラ選手を生んでいます。また、港南区の福祉保健研修交流センター「ウィリング横浜」内に「ラポール上大岡」の整備が進められています。南区では1月11日に横浜商業高校でパラスポーツ体験会が開かれ、ボッチャなどを身近に感じられます。

私は今年も防災・減災対策・子どもの安全確保、パラスポーツの推進に取り組んでいきます。